

事発番号:学18-002

事業名: 一般検査研修会 一般検査基礎講座

日時: 平成30年5月26日(土) 14:00-17:00

場所: 京都保健衛生専門学校 視聴覚室

主題1: 尿定性検査

講師1: 藤内 千歳 技師(京都第二赤十字病院)

主題2: 血球類

講師2: 仲間 美乃 技師(京都桂病院)

参加数: 総数:41名(京臨技会員:36名)

報告者: 大長 洋臣(京都府立医科大学附属病院)

以下、講演内容など

一般検査の基礎講座という形で藤内 千歳 技師(京都第二赤十字病院)、仲間 美乃 技師(京都桂病院)に講演していただきました。

尿定性検査の講義では尿検体は放置による成分変化があるため4時間以内に検査実施する事や、試験紙メーカーにより範囲にばらつきがあるためJCCLSによる標準化があったことの話がありました。

各論では、pH、尿比重、浸透圧・屈折率、尿タンパク質、ブドウ糖、ケトン体、亜硝酸塩、潜血反応、白血球反応、ビリルビン、ウロビリノーゲン、クレアチニン、蛋白/クレアチニン比(P/C比)、アルブミン/クレアチニン比(A/C比)、各項目における測定原理や関連する疾患、結果に影響を与える因子についての解説がありました。同一項目でも測定原理や影響物質により値が異なることがあるため、添付文書やメーカーからの説明、あるいは定量結果との相関を取り、施設で使用している測定方法の特徴を理解しておくことは重要であるといえます。

尿中血球類に関する講義では、各論として赤血球の形態に関する概説と血尿の説明、および尿潜血反応と尿沈渣赤血球に乖離のある場合、及びヘモグロビン尿-ミオグロビン尿の鑑別方法の必要性、肉眼的血尿と顕微鏡的血尿、尿中赤血球形態の表現の説明をしていただきました。非糸球体型赤血球や糸球体型赤血球の形態の解説を詳細にさせていただきました。血球類は診断につながる尿沈渣成分であるので、形態と疾患を結びつけ、正しく分類することが重要であり、基礎講座としてこれから一般検査を始める検査技師にも非常に有用な研修会でした。

尿定性検査は見落としはならない検査の基本であり、また尿中赤血球形態は精度管理事業でも度々議論に上がる重要な項目ですので、次年度以降も継続的に研修会を企画していきたいと考えます。